

美里町 全国学力・学習状況調査の概要

教科に関する調査結果から

〈小学校〉 国語と算数においては、県平均正答率を下回るレベルである。
 〈中学校〉 国語・数学・英語、全ての教科において、県を上回るレベルである。

○：よい傾向 ▲：改善の必要あり ⇒：改善策
 () の数値は県平均を100とした場合

	小学校	中学校
国語	64P(94.1) ○送り仮名に注意して、漢字を文中で正しく使うことができる。 ▲原因と結果など物事の因果関係について理解することに課題が見られる。 ⇒文章の読み取りの問題を中心に、条件を入れて文章を書かせる活動を充実させる。	74P(104.2) ○古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容をとらえることができる。 ▲文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみることに課題が見られる。 ⇒習得した漢字や語句を使って、短い作文等を作るなどの取組を充実させる。
算数 数学	58P(93.5) ○示された棒グラフと複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、違いを言葉と数を用いて記述できる。 ▲伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明することに課題が見られる。 ⇒求め方や理由を説明する際に必要な用語を使用させ、わかりやすい説明内容にすることを意識させる取組を充実させる。	56P(107.7) ○数と整式の乗法の計算ができる。 ▲「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」に課題が見られる。 ⇒問題解決学習や授業の振り返りの場面で、自分の考えをアウトプットし、他の生徒の考えを聞き、理解し、自分の考えを発展させる機会を、意図的に設けていく取組を充実させる。
英語		47P(102.2) ○疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問を正確に書くことができる。 ▲「日常的な話題について、短い文章の概要を捉えること」に課題が見られる。 ⇒「何のために読むのか」を意識させた授業づくりをしていき、継続して自分の考えや思いを整理して書くトレーニングを行い、英語での伝え方を実践的に習得できるようにしていく取組を充実させる。

児童生徒に対する質問紙調査結果から

児童生徒の自己有用感が県平均に比べて全般的に高い。家で自分で計画を立てて勉強している(学校の授業の予習や復習を含む)と回答している児童生徒の割合が高い。学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている児童生徒の割合が高い。

※：傾向 ○：よい傾向 ▲：改善の必要あり ⇒：改善策

小学校	中学校
○「自分には、よいところがある」と回答している児童生徒の割合が高い。 ○「将来の夢や目標をもっている」と回答している児童生徒の割合が高い。 ○「家で自分で計画を立てて勉強している」(学校の授業の予習や復習を含む)と回答している児童生徒の割合が高い。 ○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている児童生徒の割合が高い。 ○5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したと回答する児童の割合が高い。 ▲学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動の経験が県平均に比べて低い。 ⇒振り返りを活用しながら、考えたことについて自らの言葉でアウトプットできるように指導を続けていく。 ▲学校の授業時間以外に、普段(月曜から金曜日)、1日当たりの読書時間が県平均より短い。 ⇒読書について業前の時間を効果的に利用したり、授業で取り上げたりしていく。	○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答する生徒の割合が高い。 ▲外国人の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う生徒が県平均に比べて低い。 ⇒英語の授業やALTとの交流を有効的に活用していく指導をする。

調査結果を受けての改善に向けた取組

今後の改善に向けて、「美里町教育スタイル」を活用し、共通行動の下、日々の授業改善を重点に取り組んでいく。そのために、教育委員会が訪問する「日常の授業参観」を実施して、授業者に効果的なフィードバックを行っていく。また、振り返りに焦点を当てた活動に取り組んでいく。そして、美里町学力向上推進会議で課題と今後の取組を検証し、よい事例について4校で共有するなどして、来年度へとつなげていく。